

授業概要

講義と実技は連続性を持ち、講義時間内で目標、種目（室内競技）を決定し、おおよそ7グループに班編成、各班1回の授業展開を作成、授業展開を行えるよう、講義、指導する。さらに、健康科学Ⅰで行った身体計測をもとに、1年間の身体的変化を観察するよう指導する。

授業計画

第1回	授業の概説、授業展開作成（目標の設定、種目の設定、班編成）
第2回	身体計測（基礎データについて）
第3回	授業展開作成（説明、グループ分け、授業展開の話し合い）
第4回	授業展開作成（授業展開の作成）
第5回	授業展開作成（授業展開の完成とシミュレーション）
第6回	班による授業展開（1班）
第7回	班による授業展開（2班）
第8回	班による授業展開（3班）
第9回	班による授業展開（4班）
第10回	班による授業展開（5班）
第11回	班による授業展開（6班）
第12回	班による授業展開（7班）
第13回	身体計測（比較データについて）
第14回	実技授業展開の総括
第15回	健康科学Ⅱ総括
第16回	レポート提出

到達目標

授業を通して運動・スポーツを多面的（やる、支える（教える））に体験し、その特徴を理解する。また、授業展開作成から展開、実技の全てを通して、コミュニケーション能力と協調性を育む。

さらに、健康科学Ⅰで行った身体計測を継続して行い、1年間の身体的変化を観察する。

履修上の注意

※実技は体育館で行うので、室内シューズ、ジャージなどの運動に適した服装で出席すること。

※遅刻は正当な理由がある場合やむなく認めるが、3回で欠席1日扱いとする。

※実技での見学は、正当な理由がある場合は認めるが、体育館環境での授業が多いため、十分な体調管理をして出席すること。なお、事前にその可能性があることが明らかな場合は、オリエンテーション時に申し出ること。

（詳細はガイダンスで伝達する。）

※履修は、健康科学Ⅰの単位修得者が対象。

※履修人数により授業展開に関する授業内容は、適宜、変更する場合がある。

※保育士養成課程履修者は、授業すべてに出席すること。

予習復習

健康科学Ⅰ同様、日々の生活が予習であり復習と。毎日の気づきを大切にすることで理解は深まる。また、授業展開においてはスポーツの実施や観戦が大きなヒントとなることから、日常から心がけることを推奨する。

評価方法

※グループワークが多くなることから、授業へ取り組む姿勢（積極的に授業に取り組む意欲）を評価の中心をおく。さらに、提出物等の提出状況を含めて総合的に評価する。特に、授業の特性、他者との積極的な関わりは講義目標の一つであることから、評価の対象とする。

※保育士養成課程履修者は、授業すべてに出席すること。

テキスト

適宜、プリントを配布する。

授業概要

私たちを取り巻く社会には、健康情報があふれています。人生において、自らのライフデザインをする時本当に選択すべきことは何かを見据えることのできる視野の持ち方が必要です。健康科学Ⅰの内容を踏まえ、最新の情報から、各々が興味を持てるテーマを選び、プレゼンテーション～レポートへまとめしていきます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	研究テーマを決めるにあって
第3回	運動強度とエネルギー代謝
第4回	健康と消化器系
第5回	実技①
第6回	実技②
第7回	実技③
第8回	実技④
第9回	実技⑤
第10回	実技⑥
第11回	実技⑦
第12回	高齢化社会と問題点
第13回	レポートプレゼンテーション
第14回	レポートプレゼンテーション
第15回	授業のまとめ
第16回	レポート提出

到達目標

実技においては、基本的なスキルとゲーム進行習得を目標とする
プレゼンテーション～レポート作成を目指す

履修上の注意

履修条件として、1時間目のガイダンスに原則出席すること。講義は、小テストを行うこともある、実技は、テニス、ソフトボール、卓球、バドミントン、ドッチビー、アルキメット、バランスボール、フットサル、ウォーキング等、履修者の人数、状況によって実施する。講義と実技は、天候その他の条件によって回数の変更、順不同となることもある
単位取得の1要件として、外部にて救急救命法資格を取得し、証明証のコピーを期末のレポート提出時に原則添付すること。（資格取得に関する詳細は、1回目の授業中に説明予定）

予習復習

予習は特に必要としないが、講義後毎回ノートへのまとめを復習として行うこと。

評価方法

実技は、到達度より授業中の参加状況を中心に評価する。プレゼンテーションとレポート提出にて評価するが、レポート提出時に、取得資格の添付も必須条件となる。

テキスト

教科書は使用しないが、その都度必要に応じて、資料等の用意をする。